

●新発田のブランド価値を高める未来への提案

～加治川全域の「飯豊川」への改称と、水系ブランド化の推進について～

Q.

突然のお手紙にて失礼いたします。私は新発田市内に在住する一市民です。日頃より、市民が安心して暮らせる街づくりにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

本日は、新発田市が誇る豊かな自然資源を活かし、次の世代に向けて市のブランド価値を飛躍的に高めるための「ひとつの大きな夢と提案」をお届けしたく、ペンを執りました。

それは、「二級河川・加治川の全流域の呼称を、その源流の名である『飯豊川』に拡大・統一すること」、およびそれを契機とした「新発田産ブランドの再構築」です。

1. 提案の背景：見え隠れする名峰への憧れと、新発田固有の財産

下越地方に生まれ育った私たちにとって、霊峰「飯豊山」は極めて特別で、仰ぎ見るだけで背筋が伸びるような憧れの存在です。歴史的に山頂周辺が福島県喜多方市に属する背景があり、また山に近い我が街からは手前の越後山脈に遮られて奥の飯豊山が見えにくい。ため、新発田市民にとっての「おらが山」といえば、まずは身近で愛すべき二王子岳を思い浮かべる方が多いかと思えます。

しかし、視点を「川の源流」に移すと、そこには素晴らしいストーリーが眠っています。二王子岳を源流とするのは「姫田川」。そして日本海へと注ぐ雄大な流れ「加治川」の源流はあの飯豊山です。険しい上級者向け登山道ではありますが、新発田には湯の平温泉を経由して登る飯豊山へのダイレクトルートも厳然として存在します。喜多方側に遠慮することなく、飯豊連峰から流れ出る最も大きな水の恵みは、間違いなく私たち新発田市民の固有の財産です。

現に、加治川の上流域（赤谷付近まで）は、すでに正式に「飯豊川」と呼ばれています。全流域をこの名に拡大・統一することで、普段は街から見えにくい飯豊山と自分たちの生活が、豊かな一本の川で直結していることを誰もが直感的に認識し、郷土へのさらなる誇りを持つことができると考えます。

2. 本提案がもたらす「二次的効果」と経済的恩恵

この改称は、単なる名称の変更に留まらず、新発田市に極めて大きな経済的・観光の恩恵をもたらすと確信しています。

①「飯豊川水系」という強力なブランド米の誕生

現在、新発田産コシヒカリは大変美味しいにもかかわらず、市場では「新潟県産（一般）」として一括りにされ、岩船産や佐渡産、魚沼産のような際立ったブランド化がなされていません。

もしこれが「飯豊川水系コシヒカリ」となれば、バイヤーや消費者の受ける印象は一変します。「百名山・霊峰飯豊の雪解け水で育った極上の米」として、県内外に強力なアピールが可能となり、新発田の農業に新しい商機をもたらします。

② 観光・イメージ戦略の最大化

「加治川」も歴史ある素晴らしい名前ですが、全国的な知名度という点では、百名山である「飯豊」のブランド力が圧倒的です。「飯豊川が流れる美しい城下町・新発田」として発信することで、トレッキングやアウトドア、観光誘客において、全国からより多くの人々

を引き寄せるフックとなります。

③ 歴史への敬意と、段階的なプロセスについてのご提案

加治川という名前には、戦国時代の加治氏や加治荘に由来する、由緒ある地元の歴史が息づいています。この歴史を軽視するわけでは決してありません。

そこで、すぐにすべてを書き換えるのではなく、まずは以下のような「段階的なアプローチ」をご検討いただけないでしょうか。

ステップ A（意識の醸成）：「加治川（源流・飯豊川）」といったダブル表記や、観光パンフレット等での「飯豊山と加治川のつながり」を強調する PR キャンペーンの実施。

ステップ B（水系ブランドの先行立ち上げ）：川の名前を変える前に、先行して「飯豊川水系」を冠した米、水、酒、農産物のブランド化・特産品開発を試行する。

ステップ C（将来的な改称の検討）：市民や関係団体（土地改良区や漁協など）との合意形成を図りつつ、中長期的なインフラ更新のタイミングに合わせて、正式な河川名の拡大・統一を新潟県へ働きかける。

過去に、新発田市において同様の改称やブランド化の議論が検討されたことがあるかは存じ上げませんが、もし前例がないのであれば、これこそが新発田のポテンシャルを解放する新しい切り札になると信じております。

一見、突拍子もない大それた妄想のように思われるかもしれませんが、しかし、「これまで誰も意識して言葉にしなかった盲点」にこそ、新発田の未来を切り拓く大きな可能性が眠っているのではないかと考えます。

ひとつのアイデアとして、市長をはじめ担当部局の皆様の机の上に置いていただけますと幸いです。ご一読いただき、誠にありがとうございました。

（令和 8 年 7 月受付）

A.

まずは、加治川の源流が飯豊山にあり、その上流域がすでに「飯豊川」と呼ばれているという地理的・歴史的な事実を改めて「まちの価値」として再発見し、御提案にまとめてくださったことに、深く敬意を表します。「飯豊川水系」を冠したブランド米や特産品の展開、観光・イメージ戦略への活用といった御提案については、新発田産コシヒカリをはじめとする農産物の付加価値向上や観光誘客という観点から、大変興味深い内容であると受け止めております。

御承知のとおり、河川名の変更は、二級河川の管理者である新潟県が所管する事項であることに加え、地域の歴史に深く根ざした「加治川」という名称には、長年この川と共に生活してこられた多くの関係者の想いや権利が結びついており、改称の議論には相当に広範な合意形成と長い期間を要することから、御提案いただいた段階的なアプローチも含め、今後、市の各種施策を議論するにあたり、参考とさせていただきたいと考えております。

（令和 8 年 7 月 28 日回答）

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。